

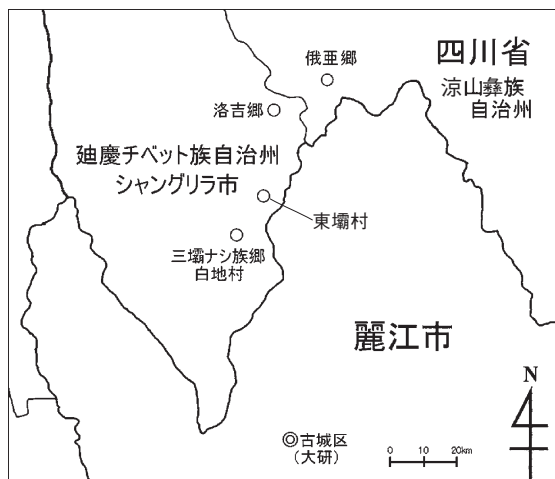
ナシ族のトンバ文字による家譜

—— 迪慶チベット族自治州三壩ナシ族郷の『習氏家譜』 ——

黒澤 直道

一 はじめに——ナシ族の非宗教テキスト

西南中国に居住するナシ族（納西族）は、独特の象形文字、「トンバ（東巴）文字」を持つことで広く知られる。ナシ族には、ナシ、ナ、ナズ、ナハなど複数の自称集団があり、トンバ文字の他にも一字一音の音節文字である「ゴバ文字」がある。二〇世紀初頭、フランス人チベット学者バコーは、チベット、四川、雲南を旅し、その著書 *Les Mo-so*（一九一三年）において、ナシ族の言語・文字・宗教について記述した。*Les Mo-so* ではナシ族のトンバ文字とゴバ文字で書かれた経典が紹介され、その一部が翻訳されている。⁽¹⁾ また、一九二二年から一九四九年までの期間、長期に亘って現地に滞在したジョゼフ・ロックは、多くのナシ族の経典を収集して翻訳・注釈を行い、また、当地の地理・歴史に関わる多大な業績を残した。⁽²⁾ さらに一九三〇年代以降には、李霖燦など中国人研究者がこれに続き、



多くの研究成果が現れた。⁽³⁾

これらの先駆的な研究の関心は主にナシ族の宗教にあり、歴史史料や經典資料から末端レベルのナシ族社会の変化を考察するようなものには至っていない。これらの研究とその後中華人民共和国成立（一九四九年）以降に行われた研究においては、トンバ文字は主にトンバと呼ばれる祭司によって儀礼で朗唱される經典に使われたものであり、それ以外の用途のものは少ないと考えられてきた。しかし、近年の調査・研究の進展により、少しずつ新たな用例が見出されてきたことも事実である。ナシ族居住地の中心である雲南省麗江市のように、長らく漢民族文化の影響を受けてきたナシ族社会では、文字史料は主に漢語・漢字を用いて記され、トンバ文字を非宗教テクストに用いることは稀であった。一方、麗江市の北方に位置する

迪慶チベット族自治州内のナシ族居住地のように、漢民族文化の影響が比較的少ない地域では、トンバ文字を儀礼の經典以外の目的に用いた例が見出される。⁽⁴⁾

本稿では、ナシ族の非宗教テクストの一例として、雲南省迪慶チベット族自治州シャングリラ市の三壩ナシ族郷白地村で発見されたトンバ文字による家譜の読音と解釈を記述し、他のナシ族の系譜資料との比較を試みる。三壩

ナシ族郷は、シャングリラ市の東南部に位置し、金沙江を挟んでナシ族の居住の中心である麗江市を望む（地図参照）。一九八一年から八二年にかけて行われた調査では、人口は一万二八〇九人、その六〇パーセントがナシ族であった。⁽⁵⁾一九九七年に示されたデータでは、人口は一万五六六五人、その六二・五二パーセントがナシ族である。⁽⁶⁾また、ナシ族以外には、漢族、チベット族、彝族、回族、リス族などが居住する。当地にナシ族が住み始めた時期は明らかではないが、当地出身の学者である和継全氏は、それを八世紀末と考えている。⁽⁷⁾伝承では、当地のナシ族の祖先は「北方」から移住し、四川省の南西部、雲南省との境に近い涼山彝族自治州木里ナシ族自治県の俄垂郷へ至り、さらにシャングリラ市内の洛吉郷を経て、当地に住み着いたという。⁽⁸⁾

二 ナシ族における祖先信仰と家譜

ナシ族固有の信仰においては、通常の死者は、葬儀を経て「遠い代の祖先」、「中間の代の祖先」、「近い代の祖先」と概括される「三代の祖先」の列に入り、死去した個人の名は記憶されない。⁽⁹⁾従って、初代からの系譜を家譜という形で書き記す行為は、ナシ族本来の文化においては見られないものである。ナシ族の祖先の来歴を語るトンバ経典には、神話レベルでの祖先の系譜が含まれているが、それらは現在まで連なる系譜の記述ではない。このような背景から、遠祖から現在まで連なるナシ族の系譜を記した家譜としてこれまで正式に公刊されたものは、麗江の土司（元代以降、中央王朝が土着の首領に与えた官職）であった木氏の系譜を漢語で記した『木氏宦譜』のみであった。⁽¹⁰⁾従って、本稿に示す家譜は、それ自体が珍しいトンバ文字によるナシ族の家譜であると同時に、木氏のような権力

を持った一族ではない、一般のナシ族の系譜として貴重な価値を有する。

三 トンバ文字による『習氏家譜』

本稿に示す家譜は、ナシ族の文化人である和尚礼氏の近年の著書『探尋納人古遷徙路（ナ人の古移動路を訪ねる）』（民族出版社、二〇一六年）に、カラー写真で紹介されているものである（九六〜九七頁）。この著作は、白地村出身の和尚礼氏が、自身のフィールドワークに基づき、ナシ族の祖先が移住してきたルートを考察したもので、習家の家譜はその部分的な資料となっている。

和尚礼氏によれば、この家譜は自身がその長も務めた三壩ナシ族郷文化站が、一九八〇年代に白地恩土湾村の習家で発見し、収集したものである。家譜が発見された習家がこの村に移住した時期については、和尚礼氏はおよそ今から八〇〇年から九〇〇年前と考えている。かつて、同村には習を名乗る家が二つあったが、現在は一つだけとなったっており、家譜はかつての二つの家に共通する家系を記している。ちなみに、麗江の木氏の祖先である阿琮阿良は、一二五三年のフビライによる大理征服の際に元朝に帰順している。

また、和尚礼氏は、この家譜が白地恩水湾村の著名なトンバ、甲嘎吉によって記されたものとする。甲嘎吉は、他の資料では鳩干吉、もしくは久戛吉とも記される人物である。彼は一八八七年、恩水湾村のトンバの家系に生まれ、二五歳の若さで高位のトンバである大トンバとなった。一九三〇年代以降には、陶雲達、李霖燦などの研究者のインフォーマントにもなり、中華人民共和国の成立後は麗江県文化館でのトンバ經典の翻訳作業に協力し、一九

六四年に没した。⁽¹¹⁾この家譜が書かれた直接的な経緯は明らかではないが、習家は当時著名であった大トンバ、甲嘎吉にその作成を依頼したのである。和尚礼氏によれば、他の実例は示されていないものの、当地の一部の家においては、他のナシ族とは異なり家譜が作られていたという。⁽¹²⁾漢文化の浸透が比較的遅かった当地において、これらの家譜はトンバ文字で書かれていたと思われる。

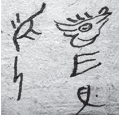
和尚礼氏の著書で紹介されている習家の家譜には、その読音や解釈は示されていない。そこで本稿では、この家譜の文字テキストについて、三壩ナシ族郷東壩村のトンバである習尚洪氏に音読を依頼し、その読音を記述した。その上でナシ語のテキストを和訳し、必要な部分について解説を付した。一部の文字については、和尚礼氏および雲南省社会科学院東巴文化研究院元研究員の和力氏より個別にご教示を得たが、全ての文責は筆者に帰する。

本稿では、表紙に書かれた内容に基づき、この家譜を『習氏家譜』と呼ぶことにする。『習氏家譜』は、トンバ経典と同様の手漉きの紙にトンバ文字で書かれている。全体に彩色が施されているものの、基本的には彩色は枠線の間を塗るものであり、色が着いている文字は僅かである。和尚礼氏による同書では、以下のように表紙は図柄や文字が描かれた部分のみが掲載されている。

【表紙一】



【表紙二】



表紙に続いて、三頁に亘って系譜が書かれている。文字は二重の線に区切られた行に縦に記され、縦の行は左から右に進む。行の中は祖先名の切れ目に従ってさらに一本もしくは二本の横線で区切られている。

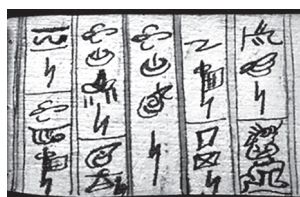
【一頁】



【二頁】



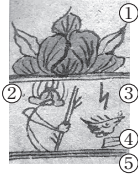
【三頁】



四 ナシ語による読音と解釈

以下に『習氏家譜』の文字について、その読音と解釈を記す。表紙以降は、【頁数―左からの行数】でその位置を示す。ナシ語の表記は、ナシ語のラテン文字による表記法である「ナシ文字規則（納西文字方案）」に拠る。各文字の読音は、麗江での一般的な発音を示している。

【表紙一】



①表紙の装飾。

②読音なし。「死者済度」の経典の表紙に描かれる図柄。人物が手にする杖は、トンバが葬儀を行うときに用いるもの。

③読音は *cheri*、段状の線で「世代」の連続を表す文字。

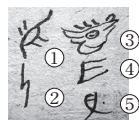
④読音は *bing*、近音の「豚 (*bang*)」の文字で「唱える」を表す (仮借)。

⑤読音は *sal*、「気」を表す文字。同音の「神霊を」招く」を表す (仮借)。

【読音】 *cheri bing sal*。

【和訳】系譜を述べて招く。

【表紙二】



① 読音は xi、「稲」を表す文字。同音の「習(氏)」を表す(仮借)。

② 読音は cheri、「世代」を表す文字。

③ 読音は biug、近音の「豚(baug)」の文字で「唱える」を表す(仮借)。

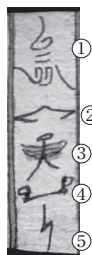
④ 読音は sai、「気」を表す文字。同音の「(神霊を)招く」を表す(仮借)。

⑤ 読音は mei、「女性」を表す文字。同音の構造助詞「〜のもの」を表す(仮借)。

〔読音〕 xi cheri biug sai mei.

〔和訳〕 習氏の系譜を述べて招くものだ。

【一一一】



① 経典の開始記号。チベット語経典の様式を踏襲したもの。

② 読音は mee、「天」を表す文字。

③ 読音は ssei、「ゼの霊」を表す文字。

④ 読音は^メ、「水桶」を表す文字。②・③と併せて祖先名「ムゼトゥ」*meesseiv*の発音を表す(仮借)。

⑤ 読音は^{chei}、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *meesseiv ddee chei*.

〔和訳〕 ムゼトゥの一代。

〔注釈〕 習尚洪氏の読音では *ddee* (「」の意)を補う。

【一一二】



① 読音は^{jug}、「野生の馬」を表す文字。口から出る線は、同音の「鳴く(^{jug})」の文字を用いて発音を表すもの。祖先名「トゥゼチュ」*tsseijug*の三音節目を表す(仮借)。

② 読音は^{chei}、「世代」を表す文字。

③ 読音は^{zee} (麗江での発音は^{zi})、「ズと呼ばれる動物」を表す文字。実際に何の動物であるかは不明。祖先名「チュゼズ」*jugsseizze*の三音節目を表す(仮借)。

④ 読音は^{chei}、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *tsseijug ddee chei, jugsseizze ddee chei*.

〔和訳〕 トゥゼチュの一代、チュゼズの一代。

〔注釈〕 習尚洪氏の読音では *dde* (「一」の意) を補う。広く知られるナシ族共通の祖先名であるため、①・③は第三音節の音のみを記し、祖先名全体は記されない。

【一一三】



① 読音は *coq*、「象」を表す文字。祖先名「ズゼツォ」*zreesseicoq* の三音節目を表す（仮借）。

② 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

③ 読音は *coqsseilee'ee*、人類の始祖「ツォゼルググ」*coqsseilee'ee ee* を表す文字。他の経典では、「ツォゼルグ」*coqsseilee ee* とも言う。

④ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *zreesseicoq ddee cheri, coqsseilee'ee ddee cheri.*

〔和訳〕 ズゼツォの一代、ツォゼルググの一代。

〔注釈〕 二句とも、習尚洪氏の読音では *dde* (「一」の意) を補う。

【一一四】



① 読音は ee、本来は「宝物」を表す文字だが、転じて「良い」という意味の ee と読む。

② 読音は hee、「歯」を表す文字。

③ 読音は noq、「羽毛」を表す文字。①・②と併せて祖先名「ウフノ」eeheeqnoi の音を表す（仮借、ただし声調は異なる。以下でも仮借では声調が異なる場合がある）。

④ 読音は ddee、「大きい」を表す文字。同音の「一」を表す（仮借）。

⑤ 読音は cheri、「世代」を表す文字。

〔読音〕 eeheeqnoi ddee cheri.

〔和訳〕 ウフノの一代。

【一五】



① 読音は noq、「羽毛」を表す文字（仮借）。

② 読音は pv、「男性器、オス」を表す文字。①と②で併せて祖先名「ノベプ」noibbeipvq の第一・三音節の音を表す（仮借）。

③ 読音は cheri、「世代」を表す文字。

④ 読音は pv、「男性器、オス」を表す文字（ただし、何故二文字並んでいるかは不明）。祖先名「ベプオ」bbeipv'o の第

二音節の音を表す(仮借)。

⑤ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *nolbbeipvyq ddee cherl, bbeipvy'o ddee cherl.*

〔和訳〕 ノベプの一代、ベプオの一代。

〔注釈〕 二句とも、習尚洪氏の読音では *ddee* (「二」の意) を補う。

【一一六】



① 読音は *o*、「積み上げた穀物」を表す文字。

② 読音は *vyq*、「持ち上げる」を表す文字。①と②で併せて祖先名「オカラ」*ogga'iaq* の第一・三音節の音を表す(仮借)。

③ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *ga'iaquul*「祖先名「カラチュ」*ga'iaquul*を表す文字。人物の頭に付いた「栗 (*ga*)」の文字が祖先名の第三音節の音を表す。

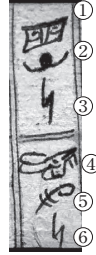
⑤ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *ogga'iaq ddee cherl, ga'iaquul ddee cherl.*

〔和訳〕 オカラの一代、カラチュの一代。

〔注釈〕 二句とも、習尚洪氏の読音では *daee* 〔一〕の意を補う。

【一七】



① 読音は *laq* (麗江での発音は *laq*)、くみ「牛の頸木」を表す文字。

② 読音は *naq*、「黒」を表す文字。①と②で併せて祖先名「ルワナ」*luanaq* の音を表す(仮借)。

③ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *lei*、「キバノロ」を表す文字。

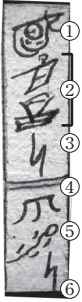
⑤ 読音は *ddvq* (もしくは *ddia*)、「蕨」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「レドゥ」*leiddvq* の音を表す(仮借)。

⑥ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *luanaq cheri, leiddvq cheri*。

〔和訳〕 ルワナの代、レドゥの代。

【一八】



ナシ族のトンバ文字による家譜

黒澤

① 読音は *zhei*、「水鳥」を表す文字。

② 読音は *diu*、「斧」を表す文字と「物を打つ様子」を表す文字。①と②で併せて祖先名「チャテユ」*zheldiu* の音を表す（仮借）。

③ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *ga*、チベット文字の借用。

⑤ 読音は *chv*、「硝水」（硝酸カリウム・硝酸ナトリウムを含む水）を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「カチュ」*gachv* の音を表す（仮借）。

⑥ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *zheldiu cheri, gachv cheri*。

〔和訳〕 チャテユの代、カチュの代。

【一一九】



① 読音は *we*、「村」を表す文字。

② 読音は *kei*、「籠」を表す文字。①と②で併せて祖先名「ワカ」*wakag* の音を表す（近音による仮借）。

③ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *gyv*、「熊」を表す文字。

⑤ 読音は *yuq*、「綿羊」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「グユ」*gyvyuq*の音を表す(仮借)。

⑥ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *wekeq cherl, geyvyuq cherl*.

〔和訳〕 ワカの代、グユの代。

【一一一】



① 読音は *we*、「村」を表す文字。

② 読音は *lecl*、「牛につく寄生虫」を表す文字。①と②で併せて祖先名「ワル」*welecl*の音を表す(仮借)。

③ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *we*、「村」を表す文字。

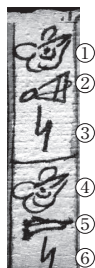
⑤ 読音は *maq*、「バター」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「ワマ」*wemaq*の音を表す(仮借)。

⑥ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *welecl cherl, wemaq cherl*.

〔和訳〕 ワルの代、ワマの代。

【一一二】



① 読音は *gvv*、「熊」を表す文字。

② 読音は *piq* または *piq*、「肩甲骨」を表す文字。①と②で併せて祖先名「グピ（もしくはグチ）」*ggvpi* (*pi*) の音を表す（仮借）。

③ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *gvv*、「熊」を表す文字。

⑤ 読音は *kee*、「足」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「グク」*ggvkee* の音を表す（仮借）。

⑥ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *ggvpi* (*pi*) *cheri*, *ggvkee cheri*.

〔和訳〕 グピ（グチ）の代、グクの代。

【一一三】



① 読音は *gvv*、「熊」を表す文字。

② 読音は *ree*、「蛇」を表す文字。①と②で併せて祖先名「グジ」*gyvree* の音を表す（仮借）。

③ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *laq*、「手」を表す文字。

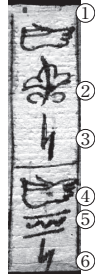
⑤ 読音は *ssing*、星座の名前を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「ラズユ」*laqssing* の音を表す（仮借）。

⑥ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *gyvree cherl, laqssing cherl.*

〔和訳〕 グジの代、ラズユの代。

【二一四】



① 読音は *bbe*、「足の裏」を表す文字。

② 読音は *bhaq*、「花」を表す文字。①と②で併せて祖先名「ババ」*bbebhaq* の音を表す（仮借）。

③ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *bbe*、「足の裏」を表す文字。

⑤ 読音は *hee*、「歯」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「バフ」*bbeheeq* の音を表す（仮借）。

⑥ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 bbebbag cheri, bbecheq cheri.

〔和訳〕 ババの代、バフの代。

【二一五】



① 読音は kee、¹「犬」を表す文字。

② 読音は sa、²「気」を表す文字。①と②で併せて祖先名「クサ」keesaの音を表す（仮借）。

③ 読音は cheri、³「世代」を表す文字。

④ 読音は laq、⁴「手」を表す文字。

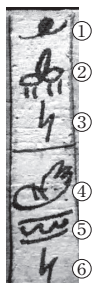
⑤ 読音は aga、⁵「勝利の神」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「ラガ」laggaの音を表す（仮借）。

⑥ 読音は cheri、⁶「世代」を表す文字。

〔読音〕 keesa cheri, lagga cheri.

〔和訳〕 クサの代、ラガの代。

【二一六】



- ① 読音は naq、「黒」を表す文字。
 - ② 読音は gu、「生姜」を表す文字。①と②で併せて祖先名「ナク」naqgu の音を表す（仮借）。
 - ③ 読音は cherl、「世代」を表す文字。
 - ④ 読音は laq、「手」を表す文字。
 - ⑤ 読音は hee、「菌」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「ラフ」lahsee の音を表す（仮借）。
 - ⑥ 読音は cherl、「世代」を表す文字。
- 〔読音〕 naqgu cherl, lahsee cherl.
 〔和訳〕 ナクの代、ラフの代。

【二一七】



- ① 読音は da、「水が」漏れる」を表す文字。
- ② 読音は dder、「竹の簣の子」を表す文字。
- ③ 読音は j:aq、「^{おもり}錘」を表す文字。①・②と③で併せて祖先名「イダジュ」ydderij:aq の音を表す（仮借）。
- ④ 読音は cherl、「世代」を表す文字。
- ⑤ 読音は j:aq、「錘」を表す文字。

⑥ 読音は *ta*、「塔」を表す文字 (*ta* は漢語借用語)。⑤と⑥で併せて祖先名「ジュタ」*je:taq* の音を表す (仮借)。

⑦ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *yidderijjeq cheri, jje:taq cheri*.

〔和訳〕 イタジュの代、ジュタの代。

【二一八】



① 読音は *mi*、「水が」漏れる」を表す文字。

② 読音は *ddvq*、「蕨」を表す文字。①と②で併せて祖先名「イドウ」*yiddvq* の音を表す (仮借)。

③ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

④ 読音は *naq*、「黒」を表す文字。

⑤ 読音は *gga*、「勝利の神」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「ナガ」*naqga* の音を表す (仮借)。

⑥ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *yiddvq cheri, naqga cheri*.

〔和訳〕 イドゥの代、ナガの代。

【二一九】



① 読音は *gee*、「囓む」を表す文字。

② 読音は *maq*、「バター」を表す文字。

③ 読音は *jieq*、「錘」を表す文字。①・②と③で併せて祖先名「グマジユ」*geemajieq*の音を表す(仮借)。

④ 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

⑤ 読音は *e*、「口から声を出す」を表す文字。

⑥ 読音は *zreeq* (麗江での発音は *jieq*)、「水」を表す文字。

〔読音〕 *geemajieq cheri ezze*——

〔和訳〕 グマジユの代、アズ……(次行に続く)

【三一一】



① 読音は *hee*、「歯」を表す文字。前頁の⑤・⑥とこの①で併せて祖先名「アズフ」*ezzehee*の音を表す(仮借)。

② 読音は *cheri*、「世代」を表す文字。

③ 読音は *e*、「口から声を出す」を表す文字。

④ 読音は *zhee*、「(人が) ぶら下がる」を表す文字。

⑤ 読音は *ga*、「勝利の神」を表す文字。③・④と⑤で併せて祖先名「アチガ」*ezheegga* の音を表す(仮借)。

⑥ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕——*hee cherl, ezheegga cherl*。

〔和訳〕(前行から続く)……フの代、アチガの代。

【三一二】



① 読音は *e*、「口から声を出す」を表す文字。

② 読音は *pv*、字源は不明。

③ 読音は *gu*、「生姜」を表す文字。①・②と③で併せて祖先名「アプク」*epvku* の音を表す(仮借)。

④ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

⑤ 読音は *gel*、「鷹」を表す文字。

⑥ 読音は *shuq*、斧の形で「鉄」を表す文字。⑤と⑥で併せて祖先名「カシヨ」*gelsuq* の音を表す(仮借)。

⑦ 読音は *cherl*、「世代」を表す文字。

〔読音〕 *epvku cherl, gelsuq cherl*。

〔和訳〕 アプクの代、カシヨの代。

〔注釈〕 「アプ (apv)」は「祖父、長老」の意味。

【三一三】



① 読音は e、「口から声を出す」を表す文字。

② 読音は pv、字源は不明。

③ 読音は zhel、「水鳥」を表す文字。①・②と③で併せて祖先名「アプチャ」apvzhel の音を表す (仮借)。

④ 読音は cheri、「世代」を表す文字。

〔読音〕 apvzhel cheri.

〔和訳〕 アプチャの代。

【三一四】



① 読音は ya、「(水が)漏れる」を表す文字。

② 読音は agb、「勝利の神」を表す文字。①と②で併せて祖先名「イガ」yigab の音を表す (仮借)。

③ 読音は cheri、「世代」を表す文字。

④ 読音は do、「板」を表す文字。

⑤ 読音は cei、「塩」を表す文字。④と⑤で併せて祖先名「トツエ」doceiq の音を表す（仮借）。

⑥ 読音は cheri、「世代」を表す文字。

〔読音〕 yigagq cheri, doceiq cheri.

〔和訳〕 イガの代、トツエの代。

【三一五】



① 読音は so、「秤」^{はかり}を表す文字。

② 読音は noq、「羽毛」を表す文字。①と②で併せて「ソノ」sono の発音を表す（仮借）。

③ 読音は cheri、「世代」を表す文字。

④ 読音なし。「祖先」(sb)を表す文字だが、発音はされない。同音の「猿」でその音を表す。また、足の形と動きを表す線で「歩く」を意味する。併せて、「祖先はこのように歩いてきた」を意味する。

〔読音〕 sono cheri.

〔和訳〕 ソノの代。（祖先はこのように歩いてきた。）

五 『習氏家譜』の特徴

(一) 形式的特徴——用紙の向きと書写方向

儀礼で用いられるトンバ經典は、一般には手漉きの紙を横向きに用いる(上図)。文字はフリーズごとにコマで区切られ、コマの進み方は左から右であり、右端に至ると下の行に移る。各コマ内の文字の配列はかなり自由であり、それがトンバ文字の大きな特徴でもあるが、コマの配列から見れば、基本的には横書きのテキストであると考えてよい。このような形態上の特徴は、大きく見ればチベット語經典の影響を受けていると考えられる。

『習氏家譜』では、他のトンバ經典と同様の紙が用いられており、紙自体が横向きに使われていることは一般の經典と変わらない。しかし、祖先の系譜を記す文字は縦書きになっており、下端に至ると右へ改行する。このような縦書きの文字配列は、一般的なトンバ經典のあり方としてはかなり異質であり、最もあり得るのはやはり漢語のテキストの影響であろう。紙の使用は横向きでありながら、文字の書写方向が縦書きという形態が、『習氏家譜』の形式的な特徴である。



(二) 内容的特徴——祖先名について

『習氏家譜』に記された祖先の系譜は、次のように大きく三つに分けることができる。

- ① ムゼトウ【二—二】からツォゼルググ【二—三】(二人目)まで。
- ② ウフノ【二—四】からカラチュ【二—六】(二人目)まで。
- ③ ルワナ【二—七】(二人目)からソノ【三—五】まで。

このうち、①と②の部分は、トンバ經典資料や漢語で記された『木氏宦譜』にも同様の系譜を確認することができ、ナシ族共通の祖先の系譜と言えるが、細部には違いも見られる。トンバ經典を中心にナシ族を研究した李霖燦は、祖先の名を述べるトンバ經典と『木氏宦譜』に見られる系譜を「上古時代」、「中古時代」、「近古時代」、「信史時代」と区分した。⁽¹³⁾これに従えば、『習氏家譜』の①は「上古時代」、②は「中古時代」、③は「近古時代」及び「信史時代」に相当する。また、『習氏家譜』では、①と②では一貫して数字の一 (one) が入っているが、③には入っておらず、この点で①・②と③は明確に分けられている。

以下の表1に、トンバ經典の『ツォバトウ』⁽¹⁴⁾や『ツォバサ』⁽¹⁵⁾、および『木氏宦譜』の一つである『木氏歴代宗譜碑』に見える系譜と『習氏家譜』①との比較を示す。

ナシ族の系譜には他の南方少数民族とも共通する父子連名制の特徴が見られるとされ、これまでの研究ではトンバ經典や『木氏宦譜』がその例として挙げられている。⁽¹⁶⁾『習氏家譜』においても、①の系譜には父子連名制の特徴が見出せる。ただし、『ツォバトウ』と『木氏歴代宗譜碑』に見られる父子連名制が、「ムゼツツ、ツツツユ、ツユツ

表 1

代数\史料	ツォバトウ	木氏歴代宗譜碑	ツォバサ	習氏家譜 ^①
一	meesseceeeceq	天羨従従	meesseceeeceq	Meesseitv ¹⁾
二	ceeeceqceeyuq	従従従羊	ceeeceqceeyuq	——
三	ceeyuqceejjuq	従羊従交	ceeyuqceejjuq	tvseijjuq
四	ceejjuqssei	従交交羨	——	——
五	juqsseizzei	交羨比羨	juqsseizzei	Juqsseizzei ²⁾
六	zzisseicoqssei	比羨草羨	zzisseicoq	zzeesseicoq
七	coqsseileel'ee	草羨里為為	coqsseileel'ee	coqsseileel'ee'ee ³⁾

i) cee と tv は音声的にやや近い。

ii) zzi と zzei は方言的差異。

iii) ツォゼルグ (coqsseileel'ee'ee) の最後の「グ (ee)」は「良い」を意味する形容詞であり (李霖燦註 (3) 所掲書 (1972) 43頁)、その名前自体はツォゼルグである。『ツォバトウ』に見えるナシ族の洪水神話では、「ルグの五兄弟」が登場し、そのうちの「良いルグ」のみが生き残り、「悪いルグ」をはじめとする他の兄弟は死ぬ。

チュ……」のように、「父名 (二音節) —— 子名 (二音節)」の四音節となつて対し、『習氏家譜』^①の連名制は、「父名 (一音節) —— sc. —— 子名 (二音節)」であり、sc. を挿入した三音節で構成されている点¹⁷⁾が異なっている。また、祖先名そのものは、『ツォバトウ』や『木氏歴代宗譜碑』に見られるものより二代少く、二代目と四代目の祖先名が欠落しているが、連名自体は保たれている。その意味ではトンバ經典と『木氏歴代宗譜碑』に見える系譜の方が、繰り返し余剰があるようにも思われる。また、トンバ經典『ツォバサ』の系譜は、四代目が欠落している点と、五・六代目が『習氏家譜』と同様に三音節で構成されている点を見ると、『ツォバトウ』・『木氏歴代宗譜碑』と『習氏家譜』の中間的な状態にあると言える。

続く^②の部分の祖先名については、細部に多少の違いは見られるものの、『ツォバサ』、『習氏家譜』、『木氏歴代宗譜碑』ともほぼ同一である。

③の部分に相当する系譜として、これまでにナシ族の系譜と

して公刊された資料としては、『木氏宦譜』があるのみである。©の部分に至る直前の哥来秋 (ga'laqqu) には買 (meig)、何 (hog)、東 (shvi)、葉 (yeq) の四人の息子がおり、四男の葉 (yeq) の一七代後が葉古年、その六代後が秋陽で、これが木氏の系譜に連なる。⁽¹⁸⁾以下に二つの『木氏宦譜』に記された系譜を示す(傍点は筆者)。

『木氏歴代宗譜碑』⁽¹⁹⁾

葉古年 秋陽 陽音都谷 都谷刺具 刺具普蒙 普蒙普王 普王刺完 刺完西内 西内西可 西可刺土 刺土
 俄均 俄均牟具 牟具牟西 牟西牟磋 牟磋牟樂 牟樂牟保 牟保阿琮 阿琮阿良 阿良阿胡 阿胡阿烈 阿
 烈阿甲 阿甲阿得 阿得阿初 阿初阿土 阿土阿地 阿地阿寺 阿寺阿牙 阿牙阿秋 阿秋阿公 阿公阿目
 阿目阿都 阿都阿勝 阿勝阿宅 阿宅阿寺 阿寺阿春

『統雲南通志稿』⁽²⁰⁾

葉古年 秋陽 陽音都谷 刺具 普蒙 普王 刺完 西内 西可 刺土 俄均 牟具 牟西 牟磋 牟樂 牟
 保 阿琮 (麥琮) 阿良 (麥良)

『木氏歴代宗譜碑』では、秋陽から数えて第三四代の阿寺阿春に至るまで一貫した父子連名制が見られる。一方、『習氏家譜』©では、父子連名制は【二一七】のイダジュ (iddajju) からジュタ (jutta) への一例しか見られない。しかし、『習氏家譜』©ではこれに代わるように、近接する世代に共通する接頭辞的な特徴を見出すことができ、中でも【二一九】から【二二四】の間で顕著である(表2)。

いこでは、weが名前の一音節目となるものが三例、geが名前の一音節目となるものが四例あり、それらは互い

に近接している。また、b_{bc}も二世代に亘って出現する。

一方、【二一五】以降では、uとiという音が名前の第一音節に三回出現するものの、互いに離れており、上の例とはやや性質が異なると思われる。また、現在に近い世代の【三一二】から【三一三】には、「祖父、長老」を意味する *gp* を名前に冠する形式が見られる。*gp* は尊敬をこめて現在の話し言葉でも使われる語であり、その点でも現在のからの近さを感じさせる名前である。

近接する世代に見える接頭辞の特徴が何らかのカテゴリーを意味する標識であるかどうかは、現時点では明確に断言できないが、これが◎の部分の比較的早い時期に出現し、その後は消失していることから、そこにナシ族社会の変化の影響を読み取ることが可能かもしれない。

また、このような視点からもう一度『木氏家譜』を見直してみると、『統雲南通志稿』で記述されるように本人の名前だけを見た場合、ここにも「普—」、「西—」、「牟—」、「阿—（麥—）」といった近接する世代に共通する接頭辞の特徴が見出せる（傍点部分）。また、これらを除くと、刺具以下の名前では「刺—」が三例と「俄—」が一例のみとなる。⁽²¹⁾そして、これらの特徴は、阿琮以降、すなわち彼らが元朝に帰順する前後からは全て「阿—」となる。あ

表2

位置	祖先名
1-9	w _{ek} el
1-9	gg _v yuq
2-1	w _e leel
2-1	w _e maq
2-2	gg _v pi(qi)
2-2	gg _v kee
2-3	gg _v ree
2-3	laqssi _u q
2-4	bb _e bbaq
2-4	bb _e heeq

る時期までは複数の接頭辞の特徴が見られ、その後、それらの多様性が見られなくなるといふ点では、『習氏家譜』とも共通点を持つと言えよう。これはあくまで仮説ではあるが、ここに一定の多様性を持った集団が統一されてゆく過程を見ることが出来るかもしれない。木氏の祖先が元朝に帰順

した一方で、フビライの軍に抵抗したそれ以外のナシ族の首領は皆討伐されたということも指摘されている。⁽²²⁾

六 おわりに

本稿では、ナシ族の非宗教テキストである三壩ナシ族郷白地村で見出された『習氏家譜』について、その読音と解釈を記述し、『木氏宦譜』など他の家譜資料との比較を試みた。形式面では、『習氏家譜』は一般のトンバ經典と同様に紙を横向きに用いながらも、文字は縦書きになっており、そこに漢語のテキストの影響が想定される。

内容面では、『習氏家譜』^①・^②の部分は、他のトンバ經典や『木氏宦譜』と大枠では共通するが、そのうちの^①の部分には独自の特徴が見られ、かつ、それが既存のトンバ經典資料に見られるバリエーションを理解する一助となることを見てとれた。一方、^③の部分の系譜では、『木氏宦譜』に特徴的な父子連名制は見られない。それに代わり、一部の近接する祖先名には接頭辞的な特徴が見られ、これが集団の統一など、末端レベルのナシ族社会における過去の変化を明らかにする手がかりとなることが期待される。

また、『習氏家譜』^①から見ると、『木氏歴代宗譜碑』の祖先名は極めて整った表記であることが分かる。一般人の家譜である『習氏家譜』^③には父子連名制がほぼ見られず、『木氏宦譜』でも、『統雲南通志稿』のように本人の名前だけを記す方法もあることから考えると、『木氏歴代宗譜碑』のような整った表記の仕方は、多分に権力の正統性を示す目的があるように思われる。以上のように、『習氏家譜』のようなナシ族の非宗教テキストの発掘と検討は、前近代におけるナシ族社会のより一層の解明に寄与できる可能性がある。

本稿は、日本学術振興会科学研究費補助金「ナシ学確立を目指した歴史史料の基盤整備と前近代ナシ族社会経済史の研究」(基盤研究C(18K01018))、研究代表者・山田勲之²⁾及び、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築——文字学に関する用語・概念の研究、二——文字学に関する既存術語の再検討」による研究成果の一部である。

註

- (1) Jacques Bacot, *Les Mo-so: Ethnographie des Mo-so, leurs Religions, leur Langue et leur Ecriture*, Leiden: E. J. Brill, 1913.
- (2) 多数の經典の翻訳・注釈 (Joseph F. Rock, "The Story of the Flood in the Literature of the Mo-so (Na-ki) Tribe", *Journal of the West China Border Research Society*, 7, pp. 64-82, 1935など) や「二卷に亘る大部の辞書 (Joseph F. Rock, *A Na-ki English Encyclopedic Dictionary*, Part I and II, Roma: Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1963, 1972) と、歴史史料とフィールドワークに基づき当地の地理・歴史を詳細に記した書物 (Joseph F. Rock, *The Ancient Na-ki Kingdom of Southwest China*, Vol. I and II, Cambridge: Harvard University Press, 1947) がある。
- (3) 經典で使われる文字の辞書として、李霖燦『麼些象形文字字典』(国立中央博物院籌備処、一九四四)と李霖燦『麼些標音文字字典』(国立中央博物院籌備処、一九四五)(後に併せて李霖燦『麼些象形文字・標音文字字典』(文史哲出版社、一九七二)として再版)、經典の翻訳・注釈として李霖燦・張琨・和才『麼些經典譯註九種』(国立編譯館中華叢書編審委員会、一九七八)などがある。
- (4) 喻遂生ほか『俄里、白地東巴文化調查研究』(中国社会科学出版社、二〇一六)の「第四編 応用文献編」や、山田勲之「トンバ文字によって記されたナシ族非宗教テキスト」(『大阪成蹊短期大学研究紀要』一五、二〇一八)など。
- (5) 雷宏安『雲南省中甸県三壩公社納西族宗教調查』(中国社会科学院世界宗教研究所昆明工作站ほか、一九九二)の一頁。
- (6) 雲南省中甸県地方志編纂委員会『中甸県志』(雲南民族

出版社、一九九七）六三頁。

(7) 和繼全『白地波湾村納西東巴文調査研究』（民族出版社、二〇一五）四八頁。

(8) 和鐘華「中甸県三壩区白地郷納西族阮可人生活習俗和民間文学情況調査」（『納西族社会歴史調査（三）』、雲南民族出版社、一九八八）。

(9) 鮑江著・曹咏梅訳「俄亞（オヤー）ナシ族の宇宙観とトンバ教儀式「開路」（『古事記学』三、二〇一七）。

(10) 漢民族文化の影響を強く受けた麗江のナシ族においては、近年、漢語で記した家譜を編纂する動きが見られるが、正式に出版されたものはほとんどない。バコーが木氏の子孫が所蔵するものを書き写した『木氏宦譜』は、東洋学者エドゥアール・シャヴァンヌによつて *T'oung pao*, Vol. XIII (1912) に紹介され、また *Las Mo-so* にも収録されている。

また、ジョゼフ・ロックは、これと同一のテクストを含む二種の『木氏宦譜』について、*The Ancient Nishi Kingdom of Southwest China* で詳説している。これら『木氏宦譜』のテクストと先行研究については、村井信幸「納西族の種族史的研究——土司の系譜を中心として」（『東南アジア——歴史と文化』一二、一九八三）や、山田勅之『雲南ナシ族政権の歴史——中華とチベットの狭間で』（慶友社、二〇一

一）の第二章を参照。また、陶雲達は「關於麼些之名稱分布与遷移」（『国立中央研究院歴史語言研究所集刊』七（一）、一九三六）で木氏の系譜資料を整理・紹介している。

(11) 李国文「人神之媒——東巴祭司面面觀」（雲南人民出版社、一九九三）一〇八―一一頁、和志武ほか『中国各民族原始宗教資料集成・納西族卷・羌族卷・独龙族卷・傈僳族卷・怒族卷』（中国社会科学出版社、二〇〇〇）四一六頁。

(12) 和尚礼氏によれば、三壩ナシ族郷東壩村日樹湾の習を姓とする人々などが家譜を持つという。東壩村日樹湾は、多くのナシ族とは言語や習俗にやや違いの見られるラコ (*lako*) と呼ばれる支系が住むが、恩土湾の習家はその系統には含まれないという。また、彼らが家譜を持つに至った経緯も明らかではない。

(13) 李霖燦「积麗江木氏宗譜碑——麼些民族的歴史長系」（同『麼些研究論文集』国立故宫博物院、一九八四）一九一頁。

(14) 李霖燦・和才「麼些族的洪水故事」李霖燦・張現・和才前掲書（註3）所収）三七頁に基づき、国際音声記号をナシ文字規則に変換。

(15) 和開祥・李例芬・和發源「祭天・遠祖回帰記」（『納西

東巴古籍訳註全集』一、雲南人民出版社、一九九一—二〇〇〇）五〇頁に基づき、国際音声記号をナシ文字規則に交換。

(16) 白鳥芳郎「父子連名制と爨氏の系譜」〔『民族学研究』二一（四）、一九五七〕など。

(17) 『ツォバトウ』のテクストの中には、上記の『ツォバサ』と同様に最後の二世代のみ三音節構成をとるものがあるが、その数は少ない。黒澤直道『ナシ（納西）族宗教経典音声言語の研究——口頭伝承としての「トンバ（東巴）経典』（雄山閣、二〇〇七）五五頁の経典テクストEはその例である。

(18) 李霖燦前掲論文（註13）一八一頁、李霖燦前掲書（註3、一九七二）IV頁。

(19) 李霖燦前掲論文（註13）一八五—一八九頁。明朝に木姓を下賜された阿甲阿得より、「木得」のように漢式の氏名を併せ持つが、ここでは省略する。

(20) 王文韶（修）『統雲南通志稿』（文海出版社、一九六六）卷一五九「南蛮志」（九四七三—九四七五頁）。

(21) 『木氏宦譜』の系譜には、この他に楊慎による序文の中

に記されたものがある（張永康・彭曉主編・雲南省博物館 供稿『木氏宦譜』（雲南美術出版社、二〇〇一）九〇—九四頁）。この系譜では、葉古年、秋陽、陽谷、谷工、工蒙、蒙汪、汪完、完濃、濃可、可同……のように、基本的に二文字の父子連名制が見られ、それが概ね『木氏歷代宗譜碑』の系譜の二文字目と四文字目にあたる。両者の文字には差異が見られるが、その場合も発音のやや近いものが用いられていることから、ナシ語の同一の音をそれぞれ異なる漢字で記したと見られる。このような表記の仕方は、二文字目と四文字目こそが本人の名前そのものであり、一文字目と三文字目は、接頭辞的なものであることを示唆するように思われる。ちなみに陶雲遠は、『統雲南通志稿』と楊慎による序文に見える系譜を、『木氏歷代宗譜碑』の「減写」と見做している（陶雲遠前掲論文（註10）一二四頁）。

(22) 村井前掲論文（註10）四二頁。

（國學院大學文学部・教授）

military figures based in Khurāsān as the governors (*dārūgha*) of Sārī and Āmul. However, since both *dārūghas* continued to maintain relations with their bases, Tīmūr attempted to limit their power by demanding military service and political hostages. When the *dārūghas* rebelled, the Timurids switched to indirect control over Māzandarān through the Mar‘ashīs.

With the establishment of the ‘Alī Sārī regime in 1411/12, the Timurids ordered the Mar‘ashīs to submit taxes, although at that point in time Māzandarān was still attempting to recover from the Timurid invasion and thus in no financial position to take on additional tax burdens. After the death of ‘Alī Sārī in 1418, the Timurids took advantage of the resulting conflict and division among the Mar‘ashīs to raise silk taxes through the promises of local rule to the highest bidder, who turned out to be Murtaḏā. Then provisions pertaining to the taxation of Māzandarān were determined, and these rules would be followed by all succeeding amirs of the Timurid Dynasty. While the Timurid authorities did grant the Mar‘ashīs a certain amount of autonomy regarding the administration of their regime and religious affairs, tax collection never wavered on the crucial economic resource of Māzandarān silk.

In his comparison of Māzandarān and Badakhshān governance, the author finds similarities between the two concerning frequency of taxation, destinations of taxation, dispatch of tax collectors and military service, while noting a difference in the political status enjoyed by the two regimes at the Timurid court, stemming from the fact of the Badakhshān regime being formed later than the Mar‘ashīs’, thus resulting in the former’s lower status.

The Dongba Script Genealogy of the Naxi:

The Genealogy of the Xi Family found in the Sanba Naxi Township of
Diqing Tibetan Autonomous Prefecture

KUROSAWA Naomichi

The Naxi ethnic group in southwest China is famous for its peculiar pictographic scripts—Dongba Scripts. For many years, scholars thought that Dongba scripts were only used for Dongba religious texts, which were chanted by Dongba priests in their religious ceremonies; few Dongba scripts were used

for other purposes. However, in areas less influenced by the Han Chinese cultures, such as the Naxi neighborhood in the Diqing Prefecture, Yunnan province, it was found that some Dongba scripts were used for non-religious purposes. In this paper, the author describes the reading sounds in the Naxi language and the Japanese interpretation of *The Genealogy of the Xi Family* written in Dongba scripts, found in the Naxi township of Diqing Prefecture, and compares them with other texts of the Naxi genealogy.

Generally, Dongba scripts are written in rectangular handmade papers. Pictographic scripts are divided into frames and are laid out in one frame almost freely. Seen from the sequence of frames, Dongba scripts are basically horizontal text. In *The Genealogy of the Xi Family*, handmade papers are also used in rectangular style, but the scripts are written in vertical lines. This is not the ordinary writing style found in Dongba scripts. A possible explanation would be that it has the influence of the Han Chinese writing style.

In the first part of *The Genealogy of the Xi Family*, the ancestors' names are basically identical to the names in other texts of the Naxi genealogy, but some names have unique features, which will aid in the understanding of the variation of names in other texts of the genealogy. After the second part, few names given on the father-child principle are found, which are characteristic in other texts of the Naxi genealogy. On the other hand, several constituents, like word prefixes, are found in some of the Xi ancestors' names. Because this feature can also be found in some names of the ancestors in other texts of the Naxi genealogy, it is hoped to give a clue that reveals social changes of the time, such as the process of unification from several tribal groups. By considering these features of genealogies, the author points out that the discovery and examination of non-religious texts of the Naxi may help to clarify the condition of their society in the pre-modern times.